

専修学校 各種学校 リカレント教育研究会

専修学校各種学校リカレント教育研究会の取組

人生100年時代においては、個々人が職業生活において必要となる能力・スキルを身につける機会が提供されることが重要視されます。リカレント教育・職業教育の抜本的拡充を目的に、リカレント教育を展開し、修了生が就業を通じ地域で活躍することにより、専修学校等におけるリカレント教育の定着を図ります。

今年度は、昨年の研究成果を踏まえ、具体的に調理製菓・飲食分野や介護福祉分野でモデルプログラムを実施するとともに、激変する社会においてあらゆる職種に共通するプログラムの研究を進め、若者、壮年、子育て世代等の無業の者など多様な人材が専修学校各種学校のリカレント教育を通じ、意欲の向上やスキルの修得を図り、職業生活(アルバイトを含む)の人材育成につながるプログラムの開発、実施の機運の醸成を図ります。

昨年度の振り返り

- 第1回研究会の開催 参加者:会員校21校29名、企業16社17名他 計48名
・中田光佐子氏(株式会社パソナマスターズ代表取締役社長)講演会を開催。企業におけるリカレント教育についてお話しいただいた。
・各校の取り組み事例発表(神戸国際調理製菓専門学校・専門学校日本工科大学校・神戸リハビリテーション福祉専門学校・学校法人神戸セミナー)
・研究会後→事例を発表した4校は関係事業者とさらに調査研究/会員校宛リカレント教育に関するアンケート実施
- 第2回研究会の開催 参加者:会員校10校11名、企業9社10名他 計32名
・県内専門学校と企業の意見交換会



公益社団法人 兵庫県専修学校各種学校連合会とは

- 兵庫県の専修学校・各種学校の振興、教職員の資質と福祉の向上を図ります。
- 県内の職業教育、生涯教育の充実など県民の知識・技術・文化の向上を図り、より良い地域づくりに貢献します。

(会員校) 専修学校65校 各種学校14校 計79校
(県内の専修学校各種学校の学生) 専修学校19,748人
各種学校6,862人 計26,610人

今年度の取組

- リカレント教育モデル講座
①調理製菓・飲食分野 ②介護福祉分野
- 県内専門学校と企業との意見交換会
①調理製菓・飲食分野 ②介護福祉分野
- リカレント先進専門学校等による講演
あらゆる職種に共通するプログラムの研究

9月8日(水)開催 県内専門学校と企業との意見交換会(調理製菓・飲食分野) ～於 神戸国際調理製菓専門学校～

9月8日(水)に神戸国際調理製菓専門学校にて県内専門学校と企業との意見交換会が開かれました。交換会の前に同校で実施中のリカレント教育モデル講座を見学、講座の参加者にも調理終了後に意見交換会に加わっていただき、活発な意見交換の場となりました。



モデル講座の参加者、講座実施担当者からの意見・感想

○モデル講座参加者

1週に1回という、前回よりもゆとりのあるスケジュールだったため、業務を抜けて参加しやすかった。その分実習の時間は短くなって内容が薄まったように感じる。講師陣の先生方の説明が丁寧でわかりやすかったのとBGMの効果など、これまでに知らなかったことが学べた。参加費が安く参加へのハードルが下がった。

○講座実施担当者

今回講座スケジュールの変更が評価された。内容に関して「基礎」と「即戦力」どちらに重きを置くかで議論があった。受講者の要望をしっかり踏まえバランスを取っていききたい。

関係企業など業界関係者からの意見・質問

○飲食業界から

人員不足で人を雇うにしても経験者がよい。調理だけでなく良いコミュニケーションの取り方なども教えて欲しい。

○参加者勤務先

参加した従業員のホール担当が調理に興味を持ってくれたり調理師免許取得につながるなど本人のキャリアに良い刺激となり受講してもらって良かった。専修学校の連携を強みとして福祉と調理の融合など、新たな切り口の学びの場があったら嬉しい。コストの面も補助金など検討して欲しい。自身の時代はいきなり現場で基礎を学ぶ場がなかった。今の人は幸せだと思う。



意見交換会

○植木 砂織氏(神戸国際調理製菓専門学校 理事長 学校長)

昨年の意見を反映し実施して良かった。今後の要望も聞くことができた。残る課題は費用面と募集方法。行政の支援を期待したい。調理以外の分野でも欲しい人材のアンケートを実施してほしい。

○山本 隆司氏(兵庫県教育課 主幹)

今リカレントも多種多様なニーズがあるためターゲットを明確にして取り組んでいくことで成果につながるのではないかと。行政の支援をリカレントのPRに活用し、機運を高めていきたい。また、専門学校は本来、短期の課程設置を想定していないが、この点等についても今後議論したい。

○辻野 美千代氏(有限会社辻野商店 焼き鳥のんちゃん 代表)

両立できるカリキュラムが良かった。働きながら学ぶことは必須。ベテランも基礎を学べるようなカリキュラムもあればありがたい。今回の参加費は安価すぎる。2～5万が妥当ではないか。

○岸本 芳宣氏(神戸リハビリテーション福祉専門学校 学校長)

介護分野では人材不足が叫ばれている中、認知症介護などの基礎研修へのニーズが高まっている。また、介護分野は入り口は広いが離職率が高い。その問題を解決するための研修も今後行っていく。専修学校としてもいろいろな分野があるので、それぞれのニーズに沿った形で研修を行っていただければ良いと思う。

○梅村 昭男氏(神戸ブレイメン動物専門学校 副校長)

リカレント教育を受けた人材とそうでない人材が存在する今後の社会にも対応が必要である。特色あるカリキュラムと様々なニーズをどうとらえるかも課題となってくる。

○喜多 徹人氏(高等専修学校神戸セミナー 理事長・校長)

仕事を休んでも学びを得る機会に参加する仕組みがあるような業界がある。そのような仕組みがあればいい。勉強したいというニーズと教える器・ノウハウ・スキルをしっかりとマッチングすることが難しく一番のネック。行政の仕組みで解決してほしい。

会員校など専門学校からの意見・質問

○半田 一朗氏(尼崎理容美容専門学校 理事長)

産業構造が変わっていている。さらにこれからは人材不足。このような時にこそリカレント教育を考えていくべき。

○衣川 勇氏(育成調理師専門学校 理事)

本校の専門課程クラスの半数(約20人)が20、30代の方。男女も半々。資格取得目的とリカレントをわけて、本校でも取り組みたい。

2021年実施 リカレント教育モデル講座(調理製菓・飲食分野)

- 調理製菓 日時 令和3年8月18日、25日、9月1日、8日、15日 場所 神戸国際調理製菓専門学校 内容 座学・調理実習(野菜の切り方/魚のはなし/料理の組み立て方 等)

10月11日(月)開催 リカレント先進専門学校等による講演会 (オンライン開催)

リカレントは大きく「個別分野での具体的な技能等の教育」「社会変化への対応」「コアスキル」の3つに分類される。本年度の研究会は1つ目を具体的にモデル実施するとともに、他の2つについての検討を進めるため、講演会を開催した。

第1部 講演会 専修学校リカレント教育実施のポイントと定着に向けて ～文部科学省「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」より～

講師：三菱総合研究所
久保寺 さつき 氏

三菱総合研究所について
「社会課題を解決し豊かで持続可能な未来を共創する」をミッションとするシンクタンク。



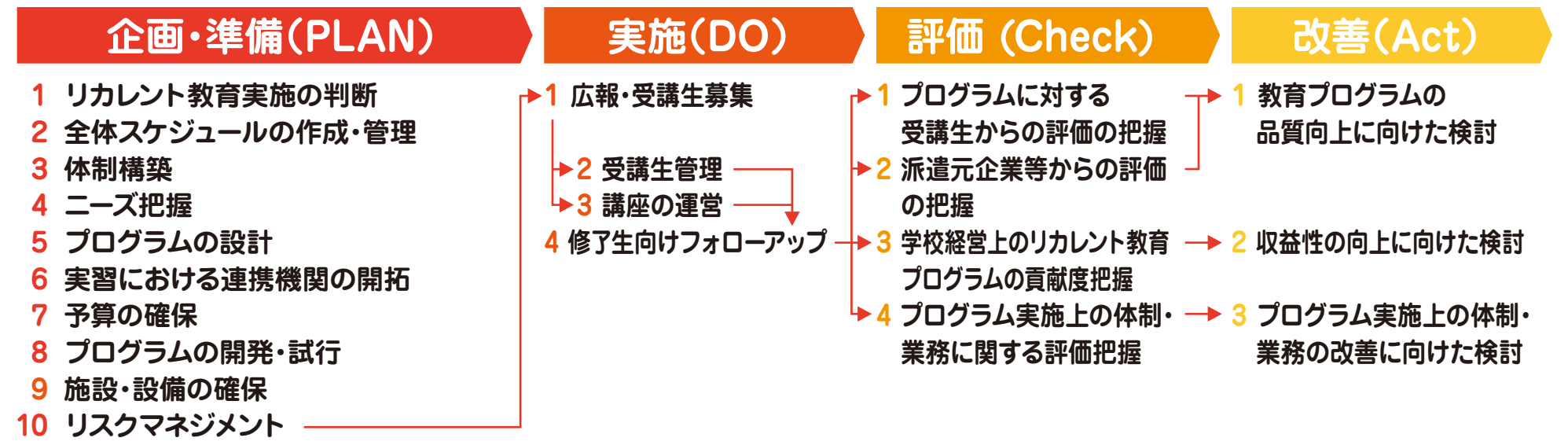
久保寺さつき氏をお招きして、文部科学省「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」において実施された調査研究の成果から専修学校におけるリカレント教育実施のポイントと定着についてお話いただきました。

日本におけるリカレント教育の現状・課題

リカレント教育の推進は、教育分野のみならず国全体の成長戦略や産業・雇用戦略においても重要性が高まっている。しかし、普及が進みにくい背景には、社会人(需要側)と専修学校(供給側)それぞれの課題の悪循環による膠着状態が考えられる。需要サイドの社会人は学びやすい取組が整備されておらず、企業は教育機関とのつながり等が不足している。供給サイドの学校側はリソース不足や収益見込みのなさ等によりプログラムを供給しづらい。まずはリカレント教育の初期市場を形成するため、学び直し意欲の高い層をターゲットとして、専修学校の強みをいかしてプログラムを実施することが重要なのではないかと。

リカレント教育プログラムを実施する際のポイント

既にプログラムを実施している学校へのヒアリングや実証調査等をもとにまとめた、持続可能なリカレント教育プログラム実施に関する全体の流れ



社会人や企業等のニーズを踏まえた取組の方向性

約一万人を対象とした社会人アンケート調査の分析結果より示唆されたこと。

- ・ターゲット像を明確化し、業務に直結する実践性とは何かを分析
- ・人事研修担当者向けサービスとして事前カウンセリングを合わせて実施
- ・より実践的なプログラムは勤め先企業や業界団体を介して広報・周知
- ・受講者だけでなく人事研修担当者向けの情報発信にも注力等の取組が重要なのではないかと。

参考：株式会社三菱総合研究所成果物(当該プロジェクトにて作成)

第2部 講演会 「スクールカウンセラーから見た子ども・保護者・学校」

講師：臨床心理士/スクールカウンセラー
中村 経子 氏

現場経験にもとづく、スクールカウンセラーとしての確かな臨床内容と話のおもしろさから、カリスマ的人気のプレゼンスペシャリスト。



臨床心理士・兵庫県スクールカウンセラーの中村経子氏から、コロナ禍の学校現場で、子供達・教職員また保護者におこっている問題、そしてその心のケアをどのようにすべきか具体例を挙げお話いただきました。

学校現場の今

今、コロナ禍により学校現場がどのような影響を受けているかを考える。事件・事故、災害に遭遇した学校では「復元(元に戻ろうとする動き)」と「変化(新しいニーズに対応しようとする動き)」の軋轢が生じる。感染状況の増減に伴い学校行事の中止や見直しを余儀なくされ、常に選択や決断を迫られる。行動経済学の「選択疲れ」「決断疲れ」と呼ばれる現象が生じている。消毒作業や検温・健康状態のチェック、集団感染が生じた場合のリスクコミュニケーションなど、本来業務以外の作業や対応が追加され、教職員の疲弊が累積している。

震災の教訓に学ぶ子どもの力

子どもは大人から庇護されるだけの存在ではない。子どもがコミュニティに与える影響力は大きい。

- 子どもが元気なら大人も元気
- 大人が癒されると家族も癒される
- 家族が癒されると、コミュニティも癒される (四川大地震の教訓)

コロナ禍における「リカレント教育」の必要性

既存の「常識」や「当たり前」にこだわる大人は子どもを元気づけることが難しい。

- コロナ禍による学校・家庭の疲弊
- 心のケア活動に繋がる・繋げるための働きかけの必要性
- 中長期的な支援の必要性

県内専門学校と企業との意見交換会

喜多 徹人氏(高等専修学校神戸セミナー 理事長・校長)の提起

- 1 リカレント教育のニーズとマッチングについて
- 2 コアスキル(協調性・コミュニケーションスキル)を学ぶリカレント教育について
- 3 リカレント教育の今後について

リカレント教育のニーズとマッチングについて

- 中農 一也 氏(専門学校日本工科大学校 理事長)
学び直し意欲が高い層はどのような分野でどんなニーズがあるのか。
- 久保寺 さつき 氏((株)三菱総合研究所 研究員)
特定の専門分野における体系的な理論や技能・技術を習得したいというニーズが大きい。具体的なニーズは未調査だが、それぞれの学校で個別にニーズを把握していただくのが良いのでは。
- 中農 氏
工業系分野でのリカレント教育については、業界自身がすでに厚労省からの助成金等を使って社員に必要な資格の取得を促したり研修を受けさせたりと進んでおりニーズが足りているように感じている。そのため、今後の展開が見据えにくい。各学校でニーズを調査するにはノウハウがあると思う。兵専各のような組織で表面的で終わらせない踏み込んだ調査も行なっていくべきではないかと。
- 久保寺 氏
一つの提案として正規課程の卒業生など既存のネットワークに対してニーズ調査を行なっていくなども検討されてはどうか。「どのような教育を受けたいか」だけでなく「今何に困っているか」を把握することも大事ではないかと思う。
- 喜多 徹人 氏(高等専修学校神戸セミナー 理事長・校長)

ニーズも、こちら側に教育するノウハウ・スキルもあるが、マッチング方法が大きな課題ではないか。多岐にわたる教育プログラムをニーズのある人とコスト面においてもマッチングできるような方法について、行政にも関わって頂ければと思う。

■山本 隆司 氏(兵庫県教育課 主幹)
リカレント教育委員会も来年3年目を迎える。まだコンテンツが少ないので底上げを図っていくこととあわせ、いかに利用していただくかが課題。ご意見のあったマッチングについては、ポータルサイトを含め、どのような手法がとれるのかを引き続き協議をしていきたい。

■喜多 氏
受講者が未定でもプログラムを準備するというのは大変だが、まず受け皿をつくりそれに対してマッチングできるような情報を発信していくという事を考えていかなければいけないのでは。

■梅村 昭男 氏(神戸ブルーメン動物専門学校 副校長)
リカレント教育を個人対象とするか企業対象とするか、企業でも大企業対象と中小企業対象では異なると思う。それぞれのどのようなアプローチが考えられるか?

■久保寺 氏
個人に対しては戦略を選定するのは難しいかもしれない。企業を対象とする場合は人事研修担当者との連携でニーズが得られれば、その企業に属する個人のニーズは把握しやすいのではないかと。
※参考ポータルサイト 文部科学省運営 マナパス <https://manapass.jp/>

コアスキルを学ぶリカレント教育について

■岸本 芳直 氏(神戸リハビリテーション福祉専門学校 学校長)
昨年はリカレント教育として専門的研修・介護を実施。2年目の今年度は、専門的な研修にプラスしてアンガーマネジメント研修・ハラスメント防止研修を行い(無料開講予定)職場の人間関係を良好にする取り組みをしたい。これは業界の高い離職率の理由に職場内

の人間関係が多いため。専門的ではないのでリカレントの趣旨に沿っているのかとの不安があったが、本日の講義を通してコアスキルだと安心できた。

リカレント教育の今後について

■福岡 壮治 氏(神戸電子専門学校 校長)
個人のキャリアのレジリエンス(変化への対応力)を高める機会としてリカレント教育が期待されているという現状を踏まえると、キャリアのレジリエンスを求められているのは転職者だけではなく雇われ側の企業にもあるのではないかと。今は企業が転職者と共に協力して変革をしていくような時代だと思う。転職者を求める企業はどのような人材ニーズが明確に見えているのか。

■久保寺 氏
レジリエンスは企業にも求められるというご意見はその通りと感じる。過去の調査では、事例として、卒業した学生に新しい業界を作っていくってほしいという考え方で人材育成をしている学校様があった。業界に求められている人材の育成とは逆の、新しいものを作っていくという考え方。今後は業界に沿った人材育成をすれば良いというだけではなくなってきたりしているかもしれない。

まとめ

■植木 砂織 氏(神戸国際調理製菓専門学校 理事長・学校長)
調理に関してはリカレントを始めやすい分野。昨春に就職先企業様71社にリカレント教育に関するアンケートを実施しその結果をうけ、モデルケースとし2回、5日間の講座を実施。その上でわかった課題は「企業がだせる費用面について」「募集の方法」。今後は行政の力を借りて募集していきたい。リカレント教育は様々な分野がある。今後はそれぞれの分野で情報を仕入れながら、専門学校だからこその取り組みを深化させていきたい。

県内専門学校と企業との意見交換会・リカレント教育モデル講座(介護福祉分野)

次回開催予定 日時 ●モデル講座 令和4年1月21日、2月25日 ●企業との意見交換会 令和4年2月25日 場所 神戸リハビリテーション福祉専門学校 内容 認知症介護基礎研修/アンガーマネジメント研修/ハラスメント防止研修